

2024年7月7日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解説教Ⅱ 52 「神に栄光を帰す祈り」

詩編115：1、Iテサロニケ5：23～24

今日が信仰問答の最後の問答になります。やはりこの最後に信仰問答の目的があると考えてよいでしょう。それは主の祈りの目的であり、あるいは信仰の目的、さらに言えば、わたしたちの人生の目的がここにあると申し上げてもよいのです。わたしたちはどこに向かって歩んでいるのでしょうか。そのことを確認して、今回の講解説教のまとめにしたいと思います。

問127第六の願いは何ですか。

答 「われらをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ」です。すなわち、わたしたちは自分自身あまりに弱く、ほんの一時立っていることさえできません。その上わたしたちの恐ろしい敵である悪魔やこの世、また自分自身の肉が、絶え間なく攻撃をしかけてまいります。ですから、どうかあなたの聖霊の力によって、わたしたちを保ち、強めてくださり、わたしたちがそれらに激しく抵抗し、この霊の戦いに破れることなく、ついには完全な勝利を収められるようにしてください、ということです。

この世は、まさにこころみの連続です。わたしたちから信仰を奪う、神さまから引き離す様々な要因があります。それが「こころみ」です。信仰問答では、まず何よりも自分自身の弱さをあげています。「わたしたちは自分自身あまりに弱く、ほんの一時立っていることさえできません」と。自分だけで信仰を保つ、自分の力で救いの完成、ゴールに達することなどできない。一週間の生活を振り返るだけでも、いかにわたしたちがフラフラしてきたか、危なっかしい歩みをしてきたかわかるでしょう。そのように自分自身が弱い上に、さらに、「恐ろしい敵である悪魔やこの世、また自分自身の肉が、絶え間なく攻撃をしかけてまいります」とあります。これはもうまったく勝ち目のない状態と理解してよいでしょう。「こころみ」に対してわたしたちはまったく無力なのです。

だからこそ、「こころみにあわせず、悪より救い出したまえ」と祈ることをイエスさまは許してください。それはイエスさまご自身が、わたしたちの弱さを担い、不信仰を担って、このこころみを引き受けてくださったからに他なりません。福音書には、荒野の誘惑の話があります。イエスさまがサタンの誘惑をお受けになられ、これを退けられた。それは十字架とよみがえりの御業の序章です。十字架において、悪魔のこころみは頂点に達します。それをイエスさまは引き受けられ十字架で死んでくださいました。そして三日目によみがえられ、このこころみに打ち勝ってくださった。このイエスさまの救いこそ、わたしたちが「こころみにあわせず、悪より救い出したまえ」と祈る最大の根拠です。

そしてこの世においては、聖霊がこのイエスさまの救いへと絶えずわたしたちを導くのです。それを信仰問答では「どうかあなたの聖霊の力によって、わたしたちを保ち、強めてくださり、わたしたちがそれらに激しく抵抗し、この霊の戦いに破れることなく、ついには完全な勝利を収められるようにしてください」と言い表します。注目したいのは「ついには完全な勝利を収められるようにしてください」この「完全な勝利」とは、終末における救いの完成と理解してよいでしょう。わたしたちは弱く、こころみに対してほんの一時立っていることさえできません。けれども聖霊がイエスさまの勝利へと導き、やがて完全なる勝利、終末における御国の完成を迎えることができる。その希望がここには語られています。信仰問答は、この終末の完成を見えています。それは次の問128にも続きます。

問128 あなたはこの祈りを、どのように結びますか。

「国とちからと栄えとは、限りなくなんじのものなればなり」というようにです。すなわち、わたしたちがこれらすべてのことをあなたに願うのは、あなたこそわたしの王、またすべてのことに力ある方として、すべての良きものをわたしたちに与えようと欲し、またそれがおできになるからであり、そうして、わたしたちではなく、あなたの聖なる御名が、永遠に讃美されるためなのです。

ここに「あなたこそわたしの王」とあります。これは神さまのご支配、神の国と理解することができます。イエスさまの到来によって、この地上に神の国、神さまのご支配が始まりました。そして、やがて終末において神の国は完成します。信仰問答では「そうして、わたしたちではなく、あなたの聖なる御名が、永遠に讃美されるため」とあります。今は、まだ神の国は完成していない。様々な悪、罪の支配が世界を覆い尽くしているかのように感じるかもしれない。しかし、落胆してはいけません。もう神の国は始まっている。やがて神さまの御名が永遠に讃美される神の国が来るのです。

振り返りますと、この信仰問答は、「生きるにも死ぬにも、あなたのただ一つの慰めは何ですか」と問いかけ、「キリストのもの」であることを慰めとして語るころから始まります。すべてがキリストのものとなる、それこそ終末における神さまのご支配、その完成を望み見る、そういう慰めから始まるのです。そして信仰問答は、最後の主の祈りにおいて、いよいよこの終末の完成を示します。問123では「あなたがすべてのすべてとなられる御国の完成に至るまで、わたしたちがいよいよあなたにお従いできますよう、あなたの御言葉と御霊とによって、わたしたちを治めてください」と言い表します。

この信仰問答全体を通して、イエスさまの昇天が強調されているように感じます。それはわたしたちが地上にあって、天を見失わないため。その完成の時を忍耐して待ち望むため。そこに本当の慰めを見るためなのです。「上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれぬようにしなさい」（コロサイ3：2）この姿勢を信仰問答は貫いているのではないのでしょうか。

わたしたちはどこを見ているでしょう。この世の成功でしょうか。豊かな生活でしょうか。そのようなことは、信仰の世界に触れれば大したことではありません。もっとこの世の現実を突き抜けた新しい世界を見てほしい。信仰は、神の国への招きです。イエスさまによってその神の国は確かなものとなりました。最後に問129を読んで説教を閉じます。

問129 「アーメン」という言葉は、何を意味していますか。

答 「アーメン」とは、それが真実であり確実である、ということです。なぜなら、これらのことを神に願い求めていると、わたしが心の中で感じているよりもはるかに確実に、わたしたちの祈りはこの方に聞かれているからです。

天の父よ。この地上において、様々なこころみ、誘惑がありますが、なおこれに支配されない、神さまの勝利の中に迎えてくださる幸いを感謝いたします。どうぞこの神さまの御国を見失うことがありませんように。ここに望みをおいて、この試練の世を耐え忍ぶことができますように。主の御名によって祈ります。アーメン。